

訪問看護 ST に向けた退院支援、看取りに関するアンケート調査結果

せいきょう訪問看護 ST すずらん 看護師 田中世玲奈

今回の症例発表にあたり、実際の退院支援や看取りでの場面について、訪問看護 ST スタッフとしての意見を自部署の看護師、リハビリスタッフに向けてアンケートを行いました。

病院や介護保険部門等多職種に当方の意見を知っていただくことで、入院中から退院後まで切れ目ない支援ができる体制を作れるようにするのが目的です。

本日のグループワークの場では多職種の方々からも意見をいただき、お互いの支援について理解を深められたらと考えています。

アンケート回収率 20/22 すべて自由記載での回答となっています。

1, 看取りに限らず、退院前カンファレンスで聞いておきたかったこと、実際に自宅に帰って困ったこと

このアンケート結果では、病院と自宅での環境、とくに移動方法や入浴環境の違いで困ったことが一番多く回答にあげられました。退院前訪問でのリハビリスタッフや福祉用具部門との連携が不可欠と考えられます。

また、家族指導についても多く意見が寄せられました。病院での指導と家での実際が上手くいかないことも多々あるようです。

実際のアンケート結果

1)退院前カンファレンスで聞いておきたかったこと

- ・退院後想定されるリスクと体調変化や急変時の対応について、本人家族が何を希望されているか
- ・本人、家族の病状の理解
- ・入院中のバイタル（退院してから血圧が低く、入院中の血圧の値が分からなかったため）
- ・病院での家族指導内容を細かく知りたかった（手技の違いについて混乱されたため）
- ・亡くなったときの連絡先（独居の場合）
- ・転倒リスクの詳細
- ・看取りの場合本人が自分の病状について、どの程度どのように受け止めているのか。本人、家族の言葉など具体的なエピソードとして少しでも情報があるとありがたい。

2) 実際に自宅に帰って困ったこと

①入院中と在宅での環境の違い

- ・入院中は設備が整っているが在宅では設備が乏しく転倒リスクが上がった
例) 手すりがなく段差があり歩けない、室内が狭いため歩行器や車いすが難しい、動作評価が1からになった
- ・入浴介助が難しかった
例) 浴室が狭い、浴室に車いすで入れない
- ・入院前と食形態が変化していて食事の準備が大変だった

②家族指導について

- ・病院で家族指導されていたが、実際にはできなかった
- 例) 注入手技、注射手技
- ・病棟での指導が実際の介護力や経済状況に合っていなかった
- 例) 吸引チューブを1本ずつ捨てる、おむつが少しでも汚れたら破棄など
- ・栄養指導について家族が理解できてなかった
- 例) 栄養指導が退院ギリギリで、食形態などについて色々質問があった
- ・介護指導について来る人、来る人言うことが違うからどれを覚えていいかわからないと言われた

③物品の不足

- ・軟膏や浣腸など、退院処方に依頼していた薬剤がなかった
- ・入院中は下剤のみだったが、退院後、浣腸が必要になった。しかし処方も指示もなかった。
- ・ルート交換物品が足りなかったため、夜中の病院に取りに行くことになった

④その他

- ・聞いていたADLよりかなり低かった
- ・最終排便が分からなかった
- ・自宅で入浴する予定であったが、入院中に入浴前後のSpO2の評価がされていなかった
- ・退院後介護ベッドを使用する予定ときいていたが、退院支援の時に訪問するとベッドを置く場所がなかった。(家族がいると聞いていたが不在、さらに本人が自前のベッドでよいと言われ、介護ベッドを設置せずに福祉用具のスタッフが帰る場面に遭遇した)

2, 退院前カンファレンスに参加するときあなたが気を付けていることはなんですか

このアンケート結果では、入院中の情報から、退院後の具体的な支援を意識していることがわかりました。本人、家族が退院後の生活がイメージできるような支援が必要との意見も多くみられました。また、本人、家族との関係作りや多職種との連携も意識して行っているようです。

実際のアンケート結果

①入院中の情報収集

- ・入院中の様子、体調、排便コントロール、睡眠状態、本人、家族の希望、病状の理解
- ・ADL状況や認知の程度、移動方法を把握
- ・入院中、どのように評価を行い、目標設定したかを聞き取り在宅での介入につなげる
- ・退院前の家族指導内容、どのような方法ですよう指導しているか(パンフレット使用しているのであればそれがほしい)
- ・今後の治療方針

②専門職としての具体的支援

- ・自宅での家族による介護力や介護状況はどうなるか
- ・本人家族の不安を聞き取り、退院までに解消や軽減に努めること

・退院後どんなことが予測されるか考え、リスクがあること、予測することの対策の確認やスタッフとの共有

・事故防止対策、チューブ類抜去時の対応など

・退院して困らないかどうか、困るところをどのように支援するのか考えていく（一日の流れを知り、退院後も困ることなく生活が送れるか考える）

・退院後の生活をイメージしにくい本人や家族には、具体的な質問確認し、その家族に合わせたやり方とのすり合わせをするよう心掛ける

・自宅には準備あるものないもの必要なものを揃えておく

・状態悪化時の対応はどうしたいか

・訪看が入る目的を明確にする

③本人、家族との関係作り

・家に帰れる喜びを一緒に感じられるようになるべく安心感をもっていただく声かけ

・本人の性格、個性、家人との関係性をみるようにしている

・本人、家族の意思、意欲

・自宅での生活に何を希望するか

④他事業所との連携

・他事業所とのコミュニケーション、連携

・具体的なケアプラン、利用するサービスごとに何がしてもらえるか、家族の負担はどうか

・どのようなサービスを導入されているか

3, 看取りを考えて在宅療養をされる予定の方、家族への支援であなたが大切にしていることはなんですか

このアンケート結果では特に本人の希望を確認し寄り添うという意見が最も多くありました。その次に不安など思いをきく、相談しやすい雰囲気、声かけの仕方など傾聴を大切にしているとの意見が多かったです。多くのスタッフがコミュニケーションを大切にしていることがわかりました。

実際のアンケート結果

・自宅での看取りについて本人、家族がどう考えているのか、どのような状態で迎えたいか確認

・本人、家族が今後どのように生活していきたいのか方向性を伺った上でNsが援助できることを実践していく

・本人の希望に寄り添う、大切にしていることの確認

・本人の思いに寄り添えるような話し方や接し方

・本人はしたくないが必要なこと（服薬等）に対して、行動してもらえるような言葉かけ

・色々サービスを利用する中で生まれた、家での希望をきいていく

・家族と一緒にいられる時間を作り、思い出を作らせてあげたい

・呼吸状態など、どのような経過をたどって最後を迎えるのか家族が正しく理解しているか確認し、情報提供、家族、本人の感情に留意する

・苦痛がないように過ごしてほしい

・安心して楽に過ごせるように

- ・ Dr がどこまで伝えているのかの情報、予後や将来についてどの程度触れてよいか
- ・ 生活に溶け込む
- ・ あまり多くを伝えすぎず、生活している患者の今までになるべく近づけて行けるよう考えて関わりたい
- ・ 清潔ケアを丁寧にしていきたい
- ・ 家族が後悔されることのないよう本人も悔いの残らない最後になるようできるだけのことをさせてもらいたい
- ・ 本人の思いを十分にきいてあげる、不安の聞き取り
- ・ 家に帰れる喜びを一緒に感じられるようになるべく安心感をもっていただく声かけ
- ・ 本人の気持ちと差がないように関わりたい
- ・ 相談しやすい雰囲気を出す
- ・ 利用者に対しては、体調を見ながら雑談などでコミュニケーションをとる。その中でも喋らない時間も大事にしている。また、雑談ではない利用者さんの思いを聞き流さない、すぐに相槌や返答をせず、傾聴を行う。介入が少しでも心地良いもの、苦ではないように気を付けている
- ・ 介入前にしてほしいことなど希望をきくようにしている
- ・ 利用者には家族がいない場面で家族さんのこと、家族には利用者のいない場面でそれぞれ困っていることや不安なことなどを聞く。少しでも心が楽になるようにと思いながら聞いている
- ・ 家族には介入時、毎回日頃の様子を聞き取り、困りごと、介護負担等確認している
- ・ 多職種と協力し、問題解決を行う

(参考資料)

病院における退院前カンファレンス

目的

- ①関係者が情報を共有し、退院時のサポートについて検討・確認・役割分担を行うことにより、患者、家族が、安心感を得られることも。スムーズに在宅療養に移行できるようにする
- ②病院と地域の関係職種同士の”顔の見える関係”づくりをすすめる
- ③在宅チーム結成の場とする

準備

- ①患者の状態に合わせて、日程、参加者、場所を調整する
- ②院内の関係者間で事前の打合せ（院内カンファレンス）を行い、方向性を統一しておく
- ③地域の関連職種に事前に情報を伝えておく。
- ④患者、家族にカンファレンスの目的や診療報酬上の負担を説明し、同意を得ておく

内容

- ・今後の治療方針、病状の変化予測の確認
- ・患者、家族の病状理解・意向の確認
- ・病状・療養生活指導上の課題と目標の共有
- ・サービス内容と役割分担の確認
- ・退院日の決定

引用文献 2021：一般社団法人全国訪問看護事業協会：訪問看護師が支える在宅ターミナルケア